

令和5年度 学校評価（保護者アンケート集計結果）

1 アンケートの概要

（1）対 象 保護者、児童、学校職員

（2）実施日 令和5年12月

（3）回収率保護者

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	全体
在籍人数	22	18	35	19	26	24	144
回収人数	22	17	35	19	26	23	142
回収率	100.0%	94.4%	100.0%	100.0%	100.0%	95.8%	98.6%

2 評価結果 ※ 肯定的回答は、評価4、3を合わせた値

4 十分できている	3 ある程度できている
2 不十分なところが多い	1 ほとんどできていない

No.	評 価 項 目	保護者 肯定的回答
1	学校は、学校の教育目標や経営方針について、保護者にわかりやすく伝えてありますか。	9 7
2	学校は、よりよい教育活動のために、工夫・改善を図ろうとしていますか。	9 7
3	学校（学級）は、お子さんの確かな学力を身に付けさせるために、熱心に取り組んでいますか。	9 4
4	学校（学級）は、お子さんの思いやりの心や命を大切にする心を育てるために熱心に取り組んでいますか。	9 6
5	学校（学級）は、お子さんの体力向上や健康管理について熱心に取り組んでいますか。	9 6
6	交通事故防止や防災・不審者から身を守る指導は、お子さんの安全につながっていますか。	9 4
7	学校は、感染症予防のための環境整備や予防に十分取り組んでいますか。	9 4
8	学校は、お子さんの好ましくない行動を適切に指導していますか。	9 3
9	授業参観や学校開放（運動会、公開日等）は、お子さんや学校を理解する場になっていますか。	9 4
10	学校（担任）は、お子さんの学校での様子について知らせ、保護者との連携を図る努力をしていますか。	9 6
11	学校（担任）は、保護者からの質問や相談に適切に応じていますか。	9 5
12	学校は、特別支援教育の充実に努めていますか。	9 7

1 3	学校は、いじめや不登校の早期解消に努めていますか。	8 8
1 4	お子さんは、楽しく学校に通っていますか。	9 3
1 5	お子さんは、授業の内容を理解していますか。	8 8
1 6	お子さんは、自分から家庭学習（宿題も含む）をしようとしていますか。	8 1
1 7	お子さんは、進んで読書をしていますか。	5 5
1 8	お子さんは、早寝早起きをするなど、規則正しい生活を心がけていますか。	7 8
1 9	お子さんは、明るく元気なあいさつを心がけていますか。	8 6
2 0	お子さんは、「本城小ブランド」の内容を達成しようと心がけていますか。	8 4
2 1	学校（教職員）は、子どもたち一人ひとりを大切にして、丁寧に指導・支援していますか。	9 2
2 2	学校（教職員）は、協力して教育活動に努力していますか。	9 3

3 評価結果からの考察、改善案

※ 肯定的な評価「満足、充実、達成度が高い」、

「だいたい満足、達成に向かっている」の回答を合計した数値の平均

- (1) 本調査の肯定的な評価は、保護者90% (-1) 児童92% (-2) 職員100% (±0) であった。いずれも90%を超える高評価で、昨年度と比較して同程度の数値であった。しかしながら、児童の評価のうち、5ポイント以上低くなったものが4項目あった。1つ目は、「感染症の予防」についてである。新型コロナウイルス感染症が5類になったことで、マスク着用が自由となったためではないかと思われるが、それでも94% (-5) と高い数値を維持しているので、児童の意識は高いままといえる。2つ目は、「家庭学習」である。保護者評価は昨年度より5ポイント上がり82%となった。児童の評価も89% (-6) と高い数値ではあるが、より学習意欲が高まる家庭学習となるように、家庭学習の手引の活用や本校の学力向上推進委員会が提案し、実践している「OMOスタ週間」といった家庭学習奨励の取組や、担任それぞれが宿題の出し方の見直し等を図っていくことで、今後も継続して学習意欲を高めていきたい。3つ目は、「読書」である。昨年度より11ポイント低くなり65% (-11) であった。保護者の評価も55% (-1) であり、高いとはいえない。学級によって児童の評価に差があるので、学校で足並みをそろえた指導をしていくようにしたい。4つ目は「挨拶」である。本年度の前期評価は95%であるが、後期評価

は88% (-6) となった。低い数字ではないが、引き続き、児童による挨拶運動を奨励したり、職員が模範を示したりしていきたい。

- (2) 全般的な評価として、「学校の取組」(No.1~13) について、保護者は95% (±0)、児童は94% (±0) の高評価を昨年同様得ている。しかし、「児童の実態」(No.14~19) の評価において、保護者が81% (-1)、児童は87% (-4) と低い。保護者は、学校としての教育目標や経営方針、教育活動の工夫・改善については、どの項目も高く評価しているが、児童に対する評価では、ほとんどの項目で、児童の評価より保護者の評価が10%ほど低い。児童は、学習活動や学校行事に頑張っており、昨年度同様、保護者にとっては児童の頑張りを安易に認めない傾向がある。

今年度の結果の特徴として、1つ目は、職員と保護者のつながりが増したと感じられる。「担任が児童の学校の様子を知らせ、保護者と連携を図る努力をしている」91% (+2)、「保護者からの質問や相談に適切に応じている」96% (+6)、と昨年度と比べ高くなっている。これは、児童に指導をしたことについてのみ家庭へ報告するのではなく、よい行いやほめる事柄を電話や連絡帳で家庭へ伝えたり、保護者からの相談に、丁寧に対応した結果ではないかと考える。

2つ目として、「基本的な生活習慣の定着」を図らなければならないと考える。保護者の評価では、「早寝早起きなど、規則正しい生活を心がけている。」が、79% (-3) と80%をわってしまっている。児童の評価においても、他の項目では97~99%ほどの高い評価が多くを占めているが、「進んで運動や外遊びをし、健康的な生活を心がけている」90% (-1)、「早寝早起きやしっかりと食事をとる等、規則正しい生活を心がけ、健康に気を付けている」90% (+2) と10人に1人は課題となっている。学校においても、子どもたちへの指導を引き続き行うとともに、家庭でも協力してもらうよう働きかける。

- (3) 今回の学校評価では、「本城小ブランド」への取組について評価を行った。保護者が84%、児童が95%と高い数値であった。本城小ブランドを意識して、それを心がけることが児童の規範意識や、学習規律の向上につながると考え、引き続き取り組んでいきたい。

評価を総じて言えば、次のようになる。

「職員は、より良い教育活動のために工夫・改善をし、児童一人一人に丁寧で、きめ細やかな指導を行う努力をしているということが、保護者から概ね理解を得ている。児童は、学校生活について、自己肯定感を高くもって取り組んでいる。」

【アンケートの質問のうち、「学校の取組」No.1~13、「児童の実態」No.14~19、「教師の取組」No.20~25の分析】

保護者：「概ね学校や児童の生活に満足しているが、さらなる向上を期待している。」

職員：「学校教育目標に向かって、職員は一致団結して指導している。」

児童：「自信をもって、やる気があり、めあてを決めて取り組んでいる。」

4 令和6年度の経営の重点（案）

本年度の学校評価において、児童、保護者、職員の三者による評価は、全体的に概ね肯定的な結果となった。CまたはDとなった項目は、読書への取組であった。この項目は、引き続き「次年度の経営の重点」として改善を図っていく。また、高評価であった他項目においても、よりよい学校経営を行うため、以下のような視点で次年度の経営に反映させていきたい。

（1）継続学校経営・運営「学校からの経営方針や情報を伝え、保護者とともに児童を育てる」 …【信頼される教師集団をつくる】

「教育方針のわかりやすい説明」が98%（+1）、「教育活動の工夫・改善」が、97%（±0）、「授業参観等による教育活動の理解」97%（±0）と昨年度と同様に高評価であった。運動会、マラソン大会などの学校行事や授業参観において、児童の様子を見られることから、学校が行っている教育活動への理解を評価していると考えられる。児童が学校を楽しく思い、潤いのある学校生活を送れるような教育活動を展開するとともに、各種たよりや学校ホームページを充実させる。

また、「学校と保護者の連携した指導」の保護者評価が91%（+2）であった。引き続き、保護者との連携を密に行うために、授業参観を増やしたり、個人面談等を積極的に実施したりしていく。そして、電話連絡等で、保護者に知らせる内容については、指導したことだけではなく、良い行いについても進んで保護者に知らせ、児童を褒め、励ますことで育てていきたい。

（2）継続学習指導「家庭学習と読書活動の充実」

…【学習意欲を高める授業づくりと学習習慣の確立】

児童の「授業内容を理解している」は99%（+1）、「学力向上への努力」97%（-2）については、昨年同様高評価であった。それに比べ、「読書への取組」については、保護者、児童ともに項目の中で最も低い数値となった。引き続き、「読書活動の充実」は、重点的に取り組むべきものとする。学年で取組に差が出ないよう、読書習慣を身に付けるための取組を進めていく。引き続き、校長からの読書賞を奨励したり、図書館司書による読み聞かせなどの企画は取り組んでいく。

また、児童の「家庭学習への取組」は89%（-6）であった。家庭学習の手引や学力向上週間の取組を行うとともに、教師が研修を積み、授業力を向上させる。それにより、児童の知識欲や学習意欲が高まり、家庭学習や読書を主体的に取り組むと考える。

（3）生活指導「基本的な生活習慣の確立」

…【家庭との連携と生徒指導の充実】

保護者評価の「基本的な生活習慣への努力」79%（-3）、「挨拶が身に付いている」87%（-2）は、ほかの評価と比べ低い数値であった。「挨拶の習慣」については、児童評価も88%（-6）と低くなった。基本的な生活習慣については、PTA総会や学級懇談会、個人面談等で保護者に説明していくほか、保健だより等でも情報を提供していく。挨拶については、職員から挨拶の指導を徹底するとともに、委員会活動をより機能させ、児童主体の活動として挨拶運動に取り組んでいく。

「良好な人間関係」97%（－1）については、毎月、「生活アンケート」を行い、教育相談を充実させる。学校生活全体をとおして、互いを認め合い、励まし合う児童を育成する。

また、交通事故防止、不審者対応や自然災害、SNSによるトラブル防止など、計画的な訓練や安全教室等を行い、自分の命は自分で守ることや犯罪に巻き込まれないように日頃から気を付けることなど、継続して指導していく。

（４）道徳教育「思いやりの心と命を大切にすることを育む」

…【道徳の授業の充実、いじめ防止基本方針の確実な履行】

「人間性向上への努力」については、保護者は97%（±0）と高評価となっている。「思いやり・助け合いの心」児童は99%（＋1）と昨年同様高評価である。このことは、「命を大切にすることをキャンペーン」や「いじめ撲滅キャンペーン」等、そして、道徳の授業や学習活動、行事等をとおして、友人関係をきめ細かく指導し、心の教育を育んできた成果と考える。年に1回は道徳授業を保護者に参観してもらうことも、保護者の理解が増した要因であると考え。次年度は、さらに道徳の授業の充実を図り、日常的に児童の様子を観察し、認めることで、豊かな心を育ていく。

また、道徳教育推進教師を中心とした研修を行い、教育活動全体をとおした道徳教育が充実するような取組を行っていく。

（５）継続 体力向上「進んで運動、健康でたくましい体づくり」

…【体育の時間の充実と年間を通した体力向上の取組】

「体力・健康への取組」については、児童評価が90%（－1）と昨年同様高評価であった。運動会やマラソン大会、体育委員会における跳び箱やマットの準備をすることや、教科体育の充実、陸上部への参加などの成果であると考え。

また、体力テストの結果を分析し、体力向上委員会を活性化させた取組を来年度も行う。

（６）環境整備「健康教育と安全な学校生活」

…【保健、安全指導の充実】

「感染症予防への取組」については、保護者93%（－4）児童94%（－5）と昨年度から比較すると低くはなったが、90%台を維持している。引き続き、児童には手洗い・うがい等、感染症対策を指導していく。